

江戸川大学仮想広告会社 エド・アド キャンドルイベントで活躍

昨年12月14日、15日の2日間、流山おおたかの森駅前の広場でキャンドルイベントが行われた。今回で7回目を迎える。地元の小学生や流山おおたかの森S・Cの買物客が参加する、地域に根づいた恒例行事だ。(文・久保田孝典)

流山おおたかの森S・C だるまやハートの形に並べ
前の広場に2000個もの
キャンドルが広がった。雪
セージ、雪だるまやツリー
などが描かれていた。地元



小学生や流山おおたかの森
S・Cで買い物をした人た
ちによるメッセージだ。

夕方5時に開始のイベン
トだが、スタッフは朝9時
には会場に集合していた。
スタッフにはエド・アドの
学生もいる。

エド・アドは、企画立案
から運営まですべて江戸川
大学学生がおこなう仮想広
告会社。社長も学生が勤め、



地域イベントも積極的にお
手伝いしている。

当日は最低気温4℃と、
とても冷え込んだ。そんな
中、約2000個ものキャ
ンドルグラスを一つ一つ並
べる。気が遠くなりそうに
なる。キャンドルがすべり
やすいので、手袋をして作
業するわけにはいかない。
指先が凍りつく。

ついに夕方、キャンドル
一つ一つに火をともしてい
く。幻想的な光のページエ
ントの開幕だ。

イベントが始まると小学
生たちは一目散にキャンド
ルに駆け寄る。沢山あつて



自分のキャンドルがどこに
あるのか分からない。自分
のキャンドルを探してい
る。自分の作品がなかなか
見つけれなくて今にも泣
きそうな子もいる。イベン
トのスタッフも一緒に探
し、やつとの思いで見つけ
ると、両親やスタッフに満
面の笑みを見せた。

初参加の1年生の古澤美
穂さんはキャンドル点灯目
前に「思ったより大変。で
も、これから点灯させてい
くのが楽しみと興奮気味。
「地域の人のふれあい
がある。エド・アドじゃな
いと体験できない」と同じ
く、初参加の3年生の三國
絵里花さん。

エド・アドの社長3年生
の三浦美由さんは「大変だ
けど来た人の笑顔が見られ
るので頑張れます」

エド・アドと協力して今
回のイベントを手掛けたス
マイルアンドアソシエイツ
の中島さんは「年々来場者
が増えても、エド・アドが
頑張ってくれている」とエ
ド・アドの働きぶりには太
鼓判だ。

写真上: キャンドルイベントの
会場の様子。写真中左: 会場の
キャンドルに火をともしエド・
アドの学生。写真中右: 自分
のキャンドルを見つけ喜ぶ親
子たち。写真下: 来場者にキャ
ンドルの説明をするエド・アド
スタッフ。(撮影: 久保田孝
典)

学生記者募集!

学生記者クラブは、学内外のイベントや、部活動、サークル活動などを取材します。

記事は「江戸川大学学生新聞」として発行するだけでなく、ウェブにもアップして世界に向けて発信していくプロジェクトです。

「Journalism」とは「発見や感動を相手に伝えること」。あなたもジャーナリストになろう!

N棟1階の受付にお気軽に声をかけてください。連絡先: TEL(04-7152-9908)E-mail(kouhou@edogawa-u.ac.jp) 企画総務課